

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0170502199
法人名	北海ケアサービス株式会社
事業所名	グループホーム北海ハウス
所在地 (電話番号)	北海道札幌市白石区北郷7条3丁目8-12 (電話)011-871-7000
評価機関名	特定非営利活動法人 アイケア・ネット
所在地	札幌市中央区南2条東1丁目1番地12
訪問調査日	平成20年 3月28日

【情報提供票より】(平成20年 3月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年10月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	24 人
職員数	24 人	常勤 24人, 非常勤 人, 常勤換算	23.3人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3階建ての	1階 ~ 3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	66,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(家賃の2か月分)	有りの場合 償却の有無	有(2年)
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 200 円
	または1日当たり	1,500 円	

(4)利用者の概要(2月15日現在)

利用者人数	26 名	男性 4 名	女性 22 名
要介護1	5 名	要介護2	10 名
要介護3	8 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.2 歳	最低 65 歳	最高 93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	新札幌聖陵ホスピタル、整形外科北新病院、札幌トロイカ病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

各フロアが開放的で温度・換気共に適切で過ごしやすい空間である。また、対面キッチンや机等の配置に工夫がされており、調理や日々の記録を記載している際にも、職員が利用者の状況を把握しやすくなるよう工夫がなされている。法人代表が地域の役員をしており、地域との交流を深めることに繋がっていると思われる。地域行事に積極的に参加したり、地域住民にホームを訪れてもらう機会を増やしていくことで、より地域に根ざしたグループホームとなることを期待します。かかりつけ医との連携もとれており、緊急時の対応などがスムーズに行われるような体制作りがなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回表での主な改善点と取り組みは、日々の記録を介護計画を確認しながら記載するようにしたことで、介護計画の職員間での共有と個別記録の改善がなされている。運営推進会議を開催し始めたことで、ホームと地域との交流が深まるよう取り組みがなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員も自己評価にかかわり、管理者も職員も積極的な取り組みが行われており、サービスの質の向上に向けた取り組みが行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、開設後1回開催されている。議題は運営推進会議の主旨や利用者に対するサービス、グループホームおける年間行事等の説明と意見交換が行われている。地域にグループホームが多数あり、参加している地域役員等も、よくグループホームの状況を把握しており協力的であるため、サービスの向上に向けた取り組みが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情の受付窓口を明らかにしている。必要に応じて利用者の状況報告をしている。金銭管理をしている利用者家族には、毎月お小遣い帳を送付し確認を行っている。運営推進会議において家族からの意見や要望がでており、その意見や要望への対応を報告する機会を設けていくことが望まれます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的な関わりとともに、地域行事に参加することで地域との交流を深めているが、ホームの避難訓練に近隣住民に参加してもらう等、日々近隣住民がホームに訪れるような積極的な関わりを期待します。パンフレットにも掲げている「地域で生活するすべての人々を支えるために」という役割を果たすためにも、今後更なる情報の発信を行っていくことが望まれます。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の運営理念を掲げ、日々取り組みを行っている。また、パンフレットにも「地域で生活するすべての人々を支えるために」を掲げ、理念の実践に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は見やすい場所に掲示しており、日々の申し送り等で再確認し、取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的な挨拶はもとより、冬の除雪やお祭りなどの地域行事に参加することで地域との交流に努めている。また、法人代表が地域の役員をしており、地域との交流を深めている。	○	日常の交流や町内会行事等を利用して、地域とのつながりを更に深くし、より地域に根ざしたグループホームとなることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員全員で自己評価に取り組み、評価の意義を理解するよう努めている。又、前回の自己評価で指摘されている改善事項への取り組みのなされている。	○	管理者職員全員が意義を理解し、よりよいサービスの提供ができるよう取り組みがなされることを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価後に運営推進会議を開催しており、サービスの向上への取り組みが行われている。地域の方や家族等も協力的で、サービスの向上に向けた意見交換が行われている。	○	定期的に運営推進会議を開催し、様々な立場の人の意見を受入れサービスの向上につなげていくことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは必要に応じた連携をとり、サービスの質の向上に取り組んでいる。管理者会議に参加し情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や必要に応じて、健康状態等個々に応じた報告がなされている。 又、毎月お小遣い帳を郵送し金銭管理の確認をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付窓口を明らかにしている。又、話しやすい雰囲気作りをしている。 運営推進会議の際にも家族からの意見があり、運営に反映するよう取り組みが行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が必要な際は、利用者への影響が最小限に抑えられるよう配慮がされている。利用者に影響があった場合は職員がその都度対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けることができるよう体制がとられている。	○	職員が様々な知識を共有しあえるよう、フロア会議を利用したり、外部の研修を受けたあとの報告会等を設けるなど職員のスキルアップに取り組むことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議や外部研修等で地域の同業者と交流の機会を多く持ち、ネットワーク作りに取り組んでいる。	○	相互訪問を行うなど、地域の同業者とのネットワーク作りを強化し、更なるサービスの向上に努めることを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじめるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前には本人と家族等が見学し、納得した上で入居している。入居後は利用者の自己決定を重視し、利用者や家族の意向等を汲み取り、ホームになじめるよう取り組みがなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者と職員は利用者を尊重し日常生活の支援を行っている。利用者も自分の役割をもち生活することで共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の自己決定を大切にし、個々のニーズに対応できるよう支援が行なわれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のケアチェックを活用し、利用者に必要な支援を職員全員で検討し、利用者や家族の意見を取り入れ、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の作成がなされており、必要時にはその都度ケアプランの見直しもなされている。又、日々の記録が介護計画を確認しながら記載できるようになっており、見直しの際にも必要な支援の確認に活用されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や状況に応じた支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の定期的な訪問診療が行われており、利用者の急変時も、かかりつけ医が対応する体制が整えられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時からホームが対応できる利用者の状態を説明し、承諾を得ており、必要に応じ家族等との話し合いがなされている。	○	利用者や家族、かかりつけ医等関係者の意向を統一し、利用者にとって良い対応が取れるような体制作りが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報の取扱い方を理解し、利用者一人ひとりのプライバシーに配慮した支援が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが個々の希望やペースに合わせた生活が送れるような支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせた形状や量、盛り付けに工夫がされている。メニューに利用者の希望を取り入れたり、季節を感じるものを取り入れたり、食事を楽しむことができるよう支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状態や希望にあわせ、ゆっくり入浴できるように支援が行われている。状況に応じて夜間入浴にも対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの出来ることを把握した上で、役割やレクリエーションの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごすことがないよう、散歩や買物に行く等、利用者に応じて日々の外出支援が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、玄関は施錠されているが、玄関の施錠に関しては開設時より検討がなされている。 各階の出入口は施錠されていない。	○	玄関の施錠に関しては今後も検討を要し、状況に応じた対応がなされていくことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
丸	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年2回の避難訓練が行われている。	○	職員全員への避難方法や避難場所の周知が望まれる。地域住民の理解と協力を得た避難訓練等が行われることが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者が1日に必要な栄養や水分を摂取できるよう、一人ひとりの摂取量を個別記録にて把握し、支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが居場所を確保できるよう、ソファやイスが配置されている。居間は開放的で過ごしやすい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具等を持ち込み、安心して過ごせるよう工夫がなされている。居室の入口に展示スペースがあり、利用者思い思いのものを展示し間違い防止にも繋がっている。		

※ は、重点項目。